

最先端の科学と出会う 2泊3日

独法化初のサイエンスキャンプ2001

今年のサイエンスキャンプは、8月1日～3日の3日間開催されましたが、内容も大きく変わり、男子7名、女子5名でした。

独立行政法人となって最初のサイエンスキャンプでもあり、今までとは変わったものを取り組み、講師の研究者の協力を得て、工作や実験の多い内容となりました。

沖縄からも参加

つくばセンターへ出迎えたところ、沖縄県からの女子参加者がいたので、思わず「遠くから、ご苦労さま」と声をかけてしまいました。

開講式のあと、「自然災害の過去・現在・未来」と題し講義。所内見学のあと研究者との親睦を目的にバーベキューパーティを開催。この中で「防災科研に入るには？」などの質問も出ていました。参加者同士も会話が進み、なごやかな雰囲気となりました。

ショック大きいハワイの火山

“噴火はどのように起こるのか？”の題で火山専門の研究者の講義。ハワイ



6台のパソコンでインド西部地震の震源決定シミュレーションを行う

の火山ビデオはショッキングでした。

“地震を知る技術”では、ペットボトルと棒磁石を使って地震計を製作。これで床の振動を計りました。続いて、6台のパソコンをネットワークで結び、参加者二人一組で震源決定を行い、見事な結果を出すことができました。

最先端技術の「マルチパラメータレーダーで雲を観る」では、レーダーの操作を教わり、参加者が自ら操作してレーダーの向きを変えてみました。



マルチパラメータレーダーの操作を学ぶ

“雨の地中への浸透と土砂災害の発生”では、土砂災害の講義のあと、電気抵抗の変化で土中の水分量を測る道具を作り、実際に測定してみました。

ペットボトルで勉強

“自然災害を身近に再現”では、ペットボトル中に起こる現象をとおして自然現象の原理を理解しました。

昼食後の閉校式では、サイエンスキャンプの終了証が理事から一人ひとりに手渡されました。

記念撮影のあと、12人は、笑顔で親元に帰って行きました。

(問い合わせ先：企画部企画課)